

集団生活を はじめる前に

かかりやすい感染症について

三二知識

監修：独立行政法人国立病院機構 三重病院
副院長 菅秀先生



あるある!

こどもと感染症

～そらくん保育園デビュー～



先生からのコメント

1歳から3歳までは、年間に10回ほど
カゼをひくといわれています。また、幼い頃は
体力もなく、疲れたり、興奮しただけでも
熱が出ることもあり、毎月熱を出す
ことも珍しくありません。幼稚園や
保育園に通い始めた頃は体調も
崩しやすくなりますので、
お子様の体調を十分に
観察してあげましょう。



かかるまえにできること



ワクチンで
予防できる感染症は、
早めに予防接種を
受けておきましょう！



手洗いを
しっかりしましょう！
(15秒以上)



食事や睡眠を
しっかりと、
規則正しい生活を
こころがけましょう！

あるある！

こどもと感染症

～そらくんが回復！～



先生からのコメント

ある程度病状がよくなっても、
まだ感染力があればほかの子どもに
うつしてしまうことがあります。
できればお医者さんに
確認してから登園しましょう。



集団生活をはじめる前に

こどもと感染症は、きつてもきれない関係です。
集団生活をはじめる前のこどもは感染症に対する抵抗力が弱く、
集団生活が始まると様々な病原体にさらされます。

そのため、保育園に通うこどもは、そうでないこどもに比べて
約2倍感染症(いわゆるかぜ)にかかりやすいといわれています。

また、感染症のなかには、
学校保健安全法施行規則により出席停止となる病気もあります。
そのため、集団生活をはじめる前に、
予防できるものは可能なかぎり予防接種を心がけましょう。
気になることがあれば、かかりつけの小児科医にご相談ください。

あるある!

こどもと感染症

～ そらくんみずぼうそうになるも・・・～



先生からのコメント

多くの感染症は、
周囲の人に病気をうつしてしまいます。
まわり人には配慮が必要です。
ワクチンで防げる病気は
予防接種で予防して
あげてください。



感染症がはやる季節

こどもがかかりやすい感染症には、流行しやすい季節があります。

感染症の特徴

季節													感染症名	かかりやすい年齢	潜伏期間*	一般的な症状・日数										治るまでの期間 (めやす)	ポイント			
春			夏			秋			冬			春				発症	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	7日目	8日目	9日目			10日目		
4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4																	5	6
3月～8月															予防接種あり	麻しん(はしか)	2歳以下	9～12日	感染するおそれのある期間										10日	感染力が極めて強く重い病気で、昔は「命さだめ」と言われたほどです。1歳になったらなるべく早く麻しん風しん混合(MR)ワクチンを受けましょう。小学校入学前に2回目のMRワクチン接種を受けましょう。
3月～7月上旬																風しん(三日ばしか)	1～9歳	14～21日	感染するおそれのある期間										5日	「三日ばしか」と呼ばれることがあります。免疫のない妊婦がかかると先天性心疾患や難聴などの障害をもった赤ちゃんが生まれる可能性があります。1歳になったらなるべく早く麻しん風しん混合(MR)ワクチンを受けましょう。
12月～7月																みずぼうそう	1～5歳	13～21日	感染するおそれのある期間										10日	かゆみの強い水疱がで、かきむしると傷口から細菌感染し、あとが残ったりします。発しんがかさぶたになるまではうつつので外出は控えましょう。1歳になったら早めに予防接種を受けましょう。2回目の接種も忘れずに。
3月～5月																感染性胃腸炎(ロタ)	2歳以下	2～4日	感染するおそれのある期間										7日	下痢、嘔吐を主徴とする胃腸炎です。感染経路は主として感染患者からの糞口感染であり、白色の下痢便が特徴です。症状が回復しても10日間程度ウイルスが便中へ排泄されます。脱水症状を起こしやすいので、こまめに水分補給をしてあげましょう。
3月～8月																おたふくかぜ	1～6歳	11～27日	感染するおそれのある期間										7日	耳の後ろにある唾液腺が炎症を起こします。痛みがひどい場合は、冷やすと和らぎます。無菌性髄膜炎を合併すると、頭痛や嘔吐、発熱などの症状が出ます。1歳を過ぎたら予防接種を受けましょう。
1月～3月																インフルエンザ	あらゆる年齢	1～5日	感染するおそれのある期間										7日	飛沫感染で感染します。毎年冬に大規模な流行がみられますので、流行前に家族全員でワクチンを受けましょう。
						11月～12月									予防接種なし	感染性胃腸炎(ノロ)	1～12歳	1～3日	●嘔吐・下痢・発熱・腹痛●										3日	下痢、嘔吐を主徴とする胃腸炎です。感染経路は主として感染患者からの糞口感染であり、症状が回復しても7日間程度ウイルスが便中へ排泄されます。二次感染を防ぐためにも、手洗いを徹底しましょう。
6月～7月																ヘルパンギーナ	4歳以下	2～4日	●発熱● ●のどに水疱性発しん●										7日	高熱が出て、のどの奥や口蓋に水疱ができる夏かぜの一種です。水疱が破れると痛みを伴うので、脱水症状や食欲不振になりやすいため、水分補給を心がけましょう。
6月～8月																手足口病	4歳以下	3～5日	●発熱● ●口の中の粘膜・てのひら・足底などに水疱性発しん●										5日	発熱とほぼ同時に、てのひら、足の裏、頬の内側の粘膜に盛り上がった水疱性の発しんができます。食事は酸味や塩分が少なく、のどごしがよいものを食べさせましょう。
7月～8月																プール熱(咽頭結膜熱)	5歳以下	5～7日	●発熱・のどの痛み(咽頭炎)● ●目の充血(結膜炎)●										5日	夏かぜの一種で、高熱が出てのどが腫れ、目が充血します。プール遊びのときに感染することが多く、また、感染者と同じタオルを使うこともうつります。
						12月～7月上旬										溶連菌感染症	5～10歳	2～5日	●発熱・のどの痛み(咽頭炎・扁桃炎)● ●発しん・苺のような赤い舌● ●皮膚がめくれる● 21日まで										21日	高熱とのどの痛み、発しんやいちご舌(舌にいちごのような真っ赤なブツブツができる)が特徴です。有効な抗菌薬を使えば1～2日で発熱やのどの痛み、発しんが消えていきます。
			通年													突発性発しん	2歳以下	約10日	●発熱● ●赤い発しん●										6日	生まれてから初めての高熱という場合が多いです。高熱が3～4日続き、解熱後に赤い小さな発しんが全身に広がります。発熱したときは、まず受診しましょう。

注：一般的な流行時期をご紹介しますが、流行する時期は地域によって異なります。ピーク時

*潜伏期間：病気に感染してから、体に症状が出るまでの期間のこと。

※学校保健 安全法施行規則、米国小児科学会(AAP)による感染症罹患時の就業制限を参考に監修した。



こどもが受けられる主なワクチン

- Hib(インフルエンザ菌b型)
- B型肝炎
- DPT-IPV(4種混合)
- MR(麻しん風しん混合)
- おたふくかぜ
- インフルエンザ
- 小児用肺炎球菌
- ロタウイルス
- BCG
- みずぼうそう
- 日本脳炎

この内容は一般事例であり、気になることがあればかかりつけ医にご相談ください。



田辺三菱製薬

5BI-413C-
2020年10月作成
(審)20VI074